新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞には私が興味をもてる内容がたくさんあったので、読んでみたいと思いました。新聞記者の仕事は自分が詳しくない分野についても調査をしなければならないので大変そうではあるけど、その分視野が広がりそうでとてもよい職業だと思いました。また、新聞の記事によって社会に変化が起こることもあると知り、驚きました。これからは新聞やニュースに興味をもって、社会で起きている出来事をたくさん知っていきたいです。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

記者の人は自分が今まで思っていたよりも、転勤が多かったり、海外のことを取材して、記事を書いたりしていて大変だなと思いました。記者の人が全く興味のないものやその分野のことを全然知っていなくても、取材したりでいろんな知識が必要で大変なんだなと思いました。法起寺のように新聞がきっかけで誤りが正しく修正されたり、それまでのミイラのこととか、世の中を変える力があってすごいと思いました。事件や事故とか災害の取材とかで、中々得られそうにない情報とか記事になっていてすごいと思いました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

転勤の数がとても多くてびっくりしたのと、自分の専門的なことばかりを取材するのではなく、様々な分野の取材を行っていると知ったので大変だと思いました。興味のないことを取材するのはとても大変だと思うし、それでもいろいろな分野に関心を持って、たくさんの場所に足を運んで、新聞を読む人たちが今起こっていることを知るために仕事をする記者の方や新聞の構成を決定するデスクの人たちはとてもすごいなと感じました。また、全国に1000人を超える人たちが休みの日でも取材に行っていることを知ったので、新聞を読むときはそのありがたさを感じながら読もうと思います。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

私は早川さんの話を聞いて、新聞記者はいろんな人と関わることができるので良いなと思いました。また、新聞の記事は、何人もの記者が関わってできていることを知り、1つの記事にもいろんな人の思いが入っていることが分かりました。今社会で起きていることを知り、その上で自分の考えを書く新聞記者はすごいなと思いました。また、中学生でも分かるように、読者目線で書くということを知り、そうするためには語彙力が大切だなと思いました。記事を書くには基礎知識も必要なので今のうちに勉強をがんばろうと思いました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

僕の家は反（アンチ）ジャイアンツなので読売新聞を読む機会は少なかったのですが、新聞は好きで小学生くらいのときに読んでいたので新聞が出来上がるまでの裏側などが少し知れて嬉しかったです。
新聞を読むと言葉のボキャブラリーが増えて話の引き出しなどが増えると思うので新聞を読むことができる機会があれば、自主的に積極性をもって読んでいこうと思います。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞を今まで全ページ読んだことがなく、特に政治・経済は興味が持てず詳しいことは知らないのが現状です。でも世の中を上手に生きていくには政治・経済のことやいろいろな分野のことを知っていないといけないなと改めて思いました。私はメディアに関わる仕事がしたいと思っているので記者や取材して世の中に情報を出す方の仕事を知れてすごく勉強になりました。自分が興味のある分野やニュースを取材をできるわけではないので普段からいろんなまた興味をもつようにしようと思いました。
毎日今に何げなく置いてある新聞にたくさんの人の努力がつまっているのを改めて感じました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

本日の講演会を受けて、新聞記者の仕事について深く知ることができた。広島県での豪雨被害に関する警察の関わるような内容や、芸能人などに関わる内容、また地元の中だけの様なローカルな内容まで、幅広いジャンルのニュースや出来事について、正しい情報を伝えれるようにしっかりと取材をしていることが分かった。また取材の他にも、新聞で連載されている漫画のような、ニュースとは関連のない部分にも多くの人が関わりながら1つの新聞が作られていることを知れた

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

記者には人脈も必要なのかなと思いました。仲が良いからこそ得られる情報があると知りました。今日のことを今日書いて明日の新聞になると聞いて驚きました。記者は書くスピードも必要で、様々なことに興味を持たないと書けないのかなと思いました。転勤が多いからこそ、その土地について興味をもちやすく、書きやすかったりするのかなとも思いました。歴史的な瞬間に立ちあえたり、人の成長を感じたりできるという記者の特権を改めて知ることができました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

取材にしてもいろいろなジャンルがあるので今から知識を増やしておくのは大切だなとあらためて感じました。私はてっきり，自分の好きなジャンルの記者をできるのかなと思っていたけれど話を聞いている限り全般するほうがったのでかなりびっくりしました。また，新聞は見出しがとても大切だと思いました。私もニュースを見るとき見出しのおかげで何となく内容がわかります。なので興味のあるトピックだけでも新聞を読みたい

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

災害時などは、調べてから30分ほどであげるということが一番おどろきました。たしかに、早いにこしたことはないのですが、話しを聞いて、文にまとめて、アップロードするまでが30分というのは、あまりにもはやすぎると感じました。

1000人強の人が、調べてまわってまとめてまわっているという読売新聞を、もっと読んでじじ問題に対応できるようになりたいです。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

ときどき新聞を読むことがあるのですが、本当に内容が面白くてじっくり読んでしまいます。それを作っている人や取材をする人のことが気になることがときどきあるので、今回の講演はすごく面白かったです。取材をすることはこんなにタイムリーなのかと興味深かったです。1時間くらいの取材もあれば、1ヵ月もつきつめるものもあるなど、新聞を作るためにする努力も気合いもとてつもないものだと感じました。このような仕事にあこがれたりするものの、やっぱり自分にはできないなという尊敬の気持ちもわいてきます。家に帰ったら、一度新聞を開いてみたいと思います。今日はいつもよりも深く読みたいと思っています。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今日の講演で実際の記事をたくさん見せてもらって、一口に新聞記者といっても政治や経済などの国全体のことから地域に密着したこと、さらには国外のことまで様々な分野の記事を書く仕事があり、取材をしてそれを記事にする仕事からそれを確認する仕事、次の朝刊の計画を立てる仕事もあって、仕事の幅広さに驚きました。新聞をあまり読んでこなかったけど、これからは読むようにしようと思いました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者の人は、色々な現場に立ち合えて、有名人に会えて、聞くかぎり楽しそうだなと思いました。事件、事故、歴史的なこと、そういうことに誰よりも早く知れて、興味のあることに関してとても楽しそうです。今後、気をつけることは、何にでも興味を持とうと思いました。早川さんの言われたとおり、興味のあることの方が色々とはかどるし、経続できるし、知ろう！と思えるので、色々なことに興味をもって、色々なことに手をあげてやってみた結果、どうだったかで、物事を判断していきたいです。色々なところに単身赴任して、色々なことを知っている新聞記者さんは、色々なことを知ってそうで、知識がだいじだと思いました。新聞記者の人の大変なところはあまり聞けなかったけど、文章とか、"語い力長けた人"が向いているというイメージがあったので、そういった点をもっと聞いてみたかったです。今後もっと関心をもって色々なことに挑戦して、色々なことを知っている人になれるよう努力します。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者の仕事について聞いて、普段僕たちが読んでいる新聞には多くの人、多くの過程があるとは知らなかった。1日の新聞をつくるために1000人近くの記者や外部の人が関わることで僕たちに情報が伝わるのは本当に信じられなかった。また、新聞記者は僕たちに正確な情報、状況を伝えるために何日、何週間さらには何年間という単位で密着し取材を続けるということは本当にしんどいことだと思う。日本各地を何度も転勤したり取材のために色々なところへ行くこの仕事はしんどいだろうがやりがいもあると思った。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者の仕事は、たくさんの場所に行けたり、いろいろな有名な人と会えたりするので、とても楽しそうで夢のある仕事だと思います。しかし、間違いが許されない責任感があり、事故現場や事件現場にも直接出向かないといけない怖さがあって、つらい仕事なのかもしれないと思います。　新聞は、最近起きたことを、自分の興味がなく調べないことも知れるいい手段だと思うので、これから活用していこうと思います。また新聞紙は、いろいろ有効活用できることがあるので、購入してみてもよいかもしれません

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

早川保夫さんの話を聞いて、からす天狗の骨とうわさされていた骨を分析した結果、それは鳥の一部だったことが分かり、それを新聞に載せたことにすごい勇気があるなと思いました。
あとに、ロマンを壊すなと怒られたことも興味深いし、新聞は良い意味でも悪い意味でも一瞬で多くの人に伝わってしまうんだなと思いました。
藤井そうたさんのインタビューをしたけど、声が全然聞こえなかったエピソードもおもしろかったです。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

早川さんの講演会を聞いて、家庭で新聞はとっているけど自分はそこまで読んでいないのでこれを機会に一気に全部ではなくても気になった所など少しずつでも読んでみたいなと思いました。たった一つの新聞だけでもとても多くの人の努力、思い、気持ちがこもっていて製作されているんだと改めて思い知ったのでそういう人たちがいるおかげで自分たちがいろいろな情報を得ることができているんだと思うととてもありがたいなと感じました。早川さんが最後におっしゃっていたように多くのことに関心をもちチャレンジしていくことを意識して生活していきたいです。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

本当にさまざまな事についての記事を書いてらっしゃるので、幅広く知識をもってらっしゃるのだと分かりました。自分たちも、普段の生活からソダテな発見をしたりさまざまな事に対して関心を持ち、学ぶ必要があるなと思じました。実際、1つ知識を知っているだけで、会話の幅が広がったり、その分野に関する別の知識への理解も深まると思います。一般的に教えられた、知識や常識も、今変わったり新しい説もあるだと分かりました。もしかすると、今自分たちが習っている事も変化すると思うと、とてもおもしろいです。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記事が何百人によって毎日発行されていることにとても驚きました　私たちが普段から入手している情報はネットからでなかなか新聞から手に入れることはないけど、新聞にはひとりひとりの心のこもった文章が集まっているので、新聞をよんでみようかな、面白そうだなと思いました　新聞は文章だけでなく、見出しや配置までこだわってつくられているときいたことがあるので、そういう工夫も詳しく知りたくなりました　新聞からしか得られないものを手に入れてみたいです

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

講演を聞いて一番印象に残ったことは『新聞記者をやってておひとりをくらうこともあるけど「ありがとうございます」を感謝してくださる方もいて、そういうときに「記者の仕事をやっていてよかった」と思う』という内容のお話でした。仕事柄各地を飛び回り、超いーそがしなお仕事だけど、やりがいもあると思うのですごいな、と思ったし、自分も将来就職するにあたって今日の講演の内容を活用できたらいいなと思いました。